

# 資料室便り

交通経済研究所資料室

## ■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）

### 『温泉旅行の近現代』

高柳友彦著／吉川弘文館発行／2023年12月／  
四六判／240ページ／1,870円（税込）

本書は、江戸時代から現在まで温泉旅行がどのように展開されてきたのかについて、経済史の研究者（一橋大学大学院講師）が、①温泉旅行に行く主体、②入手した情報と移動で利用した交通機関、③温泉地での過ごし方や費用に着目し、利用者の視点で考察したものである。明治初期までの温泉旅行は、滞在が長期間にわたり、多額な費用を必要とする湯治療養が中心であったが、鉄道開通や道路整備は、移動の所要時間短縮や費用減少をもたらした。第一次世界大戦期、大都市を中心に余暇活動が活発となり、温泉旅行の大衆化が進み、観光・レジャーでの利用が拡大した。敗戦後、復興と高度経済成長の実現により温泉旅行は再興し、1970年代以降は多様化が進んだ。コロナ禍を経験した現在、楽しむ場は歴史ある温泉地から都市部の日帰り温泉施設などへと展開し、滞在目的もビジネス利用にまで広がった。古森□

## ■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

### 『人口と旅客輸送』（日本経済と鉄道叢書2）

運輸調査局／1948年10月

当法人の前身である運輸調査局は、1946年の創立当初から機関誌『運輸調査月報』（のちの本誌）のほかに独自資料を刊行しており、「日本経済と鉄道叢書」はそのひとつである。本書では、太平

洋戦争に起因するわが国の人口構成の変化が鉄道輸送量に与えた影響を検証している。経済情勢と密接に関わる貨物輸送量に対し、旅客輸送量の増減はそれに加えて社会情勢にも左右される。戦時体制の拡大による大陸への人口流出や、地方部への疎開が旅客輸送量を増大させるのと同様に、戦後の引き揚げや食糧の買い出し、都市部企業の被災で生じた通勤距離の伸長によっても旅客輸送量は増大する。本書では、縦貫鉄道（函館本線・東北本線・東海道本線・山陽本線・鹿児島本線）沿線人口などを推定して検証している。田邊□

## ■新着情報（2023年12月分）

- 1 総合交通体系論の系譜と展開 杉山雅洋 流通経済大学出版社 2023年12月
- 2 世界に学ぶ自転車都市のつくりかた——人と暮らしが中心のまちとみちのデザイン 宮田浩介 編著 学芸出版社 2023年11月
- 3 JR西日本グループ統合レポート2023 西日本旅客鉄道 2023年10月
- 4 鉄道ダイヤのつくりかた〔改訂2版〕 富井規雄 オーム社 2023年11月

→続きの情報はホームページで

\* 上記以外の新着図書や新着雑誌につきましては、ホームページをご覧ください。キーワードによる蔵書検索も可能です。併せて月別の「新着図書目録」も掲載しています。



## ■資料室からのご案内

「書庫のなかから（所蔵資料の紹介）」で取り上げた図書は、資料室でご覧いただけます。併せて、蔵書検索システムで「上野」と記してあるものすべてがご利用になれます。ぜひ蔵書検索システムを通して私ども資料室をのぞいてみてください。

担当：土方規義 古森崇史 原祥太 田邊由佳